

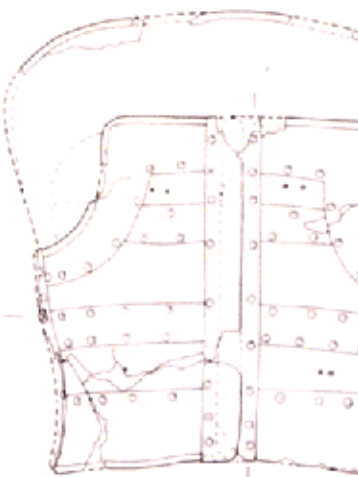
「発掘されたひろしま最新情報展」

この足元の大地に、失われたはずの私たちの遠い記憶は、確かに息づいています。遺跡——。本展では 2000 年(平成 12 年度)以降、広島市文化財団文化財課が発掘調査した市内 8 遺跡、そして、これまでの発掘で得られた出土品の中でも、特に重要なものとして広島市が重要有形文化財に指定した市内 6 遺跡(二重線枠分)の出土品をご紹介します。

有井城跡

戦乱に翻弄された石内地区の中世を物語る歴史の証人
南北朝～室町時代(約 700～400 年前)
佐伯区五日市町

石内川周辺をおさめていた小幡氏が築いた山城です。城内には石垣・井戸も見られます。輸入陶磁器・銅・皿・播鉢・火鉢などの日用品が多く見つかりました。このことから、普段は武士たちの生活の場で、戦時には守りの中心となるような施設だったと思われます。



城ノ下古墳群

朝鮮半島との交流をうかがわせる
装飾品や多量の武具が出土
古墳時代(約 1700～1500 年前)
佐伯区五日市町

同じ丘陵上で弥生時代の集落跡と古墳群が見つかりました。特に第 1 号古墳からは、短甲など多数の武具や金メッキされた装飾品などが出土し、当時の畿内政権や朝鮮半島に関わりのあった人物の墓と考えられます。

史跡広島城跡本丸

広島市のシンボル、西国を代表する大城郭の真の姿に迫る
安土桃山～江戸時代(約 400～130 年前) 中区基町

本丸は内堀に囲まれ、天守閣がそびえる、まさに広島城の中心です。その史跡整備のため、7 年間にわたり遺構の保存状況を調査しました。江戸時代、政治の中心であった表御殿や、門、櫓、米蔵、番所など多くの建物の礎石などを確認しました。

広島城遺跡太田川河川事務所地点

有力家臣の屋敷跡か——地中からきらめく金箔瓦出現
安土桃山～江戸時代(約 400～130 年前) 中区八丁堀

この場所は、広島城築城当初から江戸時代を通して、武士の住む屋敷地でした。江戸時代の建物の柱穴、地下室(食料などの貯蔵用のむろ)、ゴミ穴、埋め桶、井戸、屋敷境の溝などが見つかりました。また、金箔瓦をはじめ、鬼瓦、陶磁器、箸・下駄、銭貨、金属製品(釘・さじなど)が大量に出土しました。

権地古墳

石製のベルト飾り出土——
平安時代の地方行政官の墓か
平安時代初期(約 1200 年前)
安佐南区長東西

火葬した骨を甕のようなものに入れて安置したと考えられる土槨墓で、古代の役人のベルトに飾りとして付けられた石帯が出土しています。この地域を治めた役人が葬られていたと考えられます。

鯛ノ迫遺跡

安川北岸の丘陵上に営まれた
弥生時代後期の集落跡
弥生時代後期(約 1900～1750 年前)
安佐南区安東

安川流域全体を見渡せる尾根の上に営まれた弥生時代の集落跡で、竪穴住居跡 5 軒などが見つかりました。遺物としては、甗形土器と呼ばれる用途不明の土器や、マツリに關係したと考えられる青銅製の簪などが出土しました。

可部寺山 1 号遺跡

古墳時代前半期の古墳群と
中世の宗教施設を確認
古墳時代中期(約 1600～1500 年前)・
室町時代(約 600～400 年前)
安佐北区可部町

可部の町並みを眼下に望む寺山という丘陵上にあります。古墳 3 基と、室町時代にこの地にあった寺院の関連施設の跡が確認されました。寺院関連施設では、平坦な地面に大量の炭と銅銭、鉄釘が混ざって広がっており、火を用いた何らかの儀礼が行われたものと考えられます。

梨ヶ谷遺跡 B 地点

弥生から古墳へ——新たなる時代への動きを示す墳墓群
弥生時代末期(約 1700 年前) 安佐北区口田町

太田川東岸の丘陵上にあり、弥生時代の集落跡と墓地からなります。太田川の川原石などを用いた、広島でも最古級の竪穴式石室が 4 基見つかりました。これらは、弥生時代から古墳時代へと向かう広島の様子を知る上で大変重要なものです。同様の石室がある南方の西願寺山墳墓群、弘住古墳群などとの関わりも注目されます。

弘住古墳群

古代の色鮮やかに 1740 点もの玉類が出土
古墳時代(約 1700～1500 年前) 安佐北区口田町

弘住古墳群は、目の前に太田川を望む丘の上にあります。3 基の古墳のうち、第 3 号古墳の竪穴式石室は川原石などを積み上げたもので、近くの梨ヶ谷遺跡や西願寺山墳墓群などの市内最古級の石室と共通点が見られ、その関係が注目されています。また、第 2 号古墳からは、市内でも最多の 1740 点もの玉類が出土しました。

史跡中小田古墳群

太田川下流域を治めた歴代首長墓か——
市内を代表する前半期古墳群
古墳時代(約 1700～1600 年前) 安佐北区口田町

太田川に突き出した見晴らしのよい尾根上に造られた 16 基の古墳からなる、古墳時代前期から中期にかけての古墳群です。第 1 号古墳からは三角縁神獣鏡や車輪石が出土し、広島のみならず我が国の古墳時代を考える上で重要な遺跡であることから、平成 8 年に国史跡に指定されました。

三谷遺跡

多量の鉄器を伴う巨大住居跡発見——
瀬野川南方の高台に営まれた弥生時代の集落跡
弥生時代中期～後期(約 1900～1800 年前) 安芸区中野東町

瀬野川流域を見わたせる尾根の上にあります。竪穴住居跡 24 軒などが見つかりました。特に第 6 号竪穴住居跡は、広島湾岸にある遺跡の中では最大級の径 10.5m の多角形の住居と考えられます。また、第 7 号住居跡からは、多くの鉄器が出土しました。

成岡 A 地点遺跡

瀬野川流域で初めて
古墳時代初期の古墳群を確認
弥生時代末期～古墳時代初期(約 1700 年前)
安芸区中野東

瀬野川流域を見下ろせる尾根の上に、3 基の古墳と集落跡が見つかりました。最大規模の第 3 号古墳は長径 13.5m、短径 11.5m の長円形の古墳で、主体部からは朝鮮半島で見られるタイプの甗が出土しました。この古墳は、市内最古級の古墳と見られます。また第 2 号古墳からは、身長 161.5 cm、60 歳以上の男性の人骨が出土しました。

成岡 B 地点遺跡

瀬野川流域で
初めて確認された
弥生時代の墳墓群
弥生時代中期～後期
(約 2000～1800 年前)
安芸区中野東

瀬野川を見下ろす小高い尾根の上にある弥生時代の墓地の跡で、土槨墓や大きな甕を用いた乳幼児用の棺が多数見つかりました。

ホームページで
市内の遺跡を紹介
しています。ぜひ
ごらん下さい!!



【問合わせ先】
〒732-0052 広島市東区光町二丁目 15-36
(財)広島市文化財団 文化科学部 文化財課
TEL082-568-6511/FAX082-568-6513
メールアドレス hbb@mogurin.or.jp
ホームページ http://www.mogurin.or.jp